



上尾市

中山道まめ知識

格式ある本陣と  
紅花の取手で栄えた桶川宿

桶川宿は中山道6番目の宿場としてにぎわい、大名なども宿泊所としてよく利用した。府川家が世襲した本陣は、現在埼玉県内で唯一残る本陣遺構である。また桶川地方は紅花の名産地であり、農産物の集散地としても栄えた。

資料館の利用案内

中山道宿場館

- 桶川市寿1丁目 ●TEL 048-778-3567
- 開館時間 9:00~16:00 ●入館料 無料
- 休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日が休館)



11 浄念寺

桶川市南1丁目

赤い鐘楼門の奥が本堂。天文15年(1546)の開基と伝えられている。境内には京都の紅花商人、吉文字屋彦市ゆかりの墓石がある。



13 中山道宿場館

桶川市寿1丁目

商店街の空店舗を利用した施設。桶川市の観光案内のほか、中山道や近隣の市町村に関する資料なども提供している。



15 大雲寺

桶川市西1丁目

弘治3年(1557)開基。本堂のそばには石の地蔵が3体あり、その中に正徳3年(1713)にできた有名な「女郎買い地蔵」がある。



16 桶川宿

桶川市北1丁目

「直進鴻巣、本」の標識を過ぎ、に県が立てたは「上の木戸」



10 武村旅館

桶川市南1丁目

桶川市に入り、立花町バス停前の「下の木戸跡」の石碑を過ぎると、左手に見えてくる宿場で唯一残った旅館。格子の玄関に往時の風情が漂う。



12 島村家住宅土蔵

桶川市寿1丁目

天保7年(1836)の建築で、木造三階建ての珍しい土蔵。国登録の有形文化財。島村家は桶川宿の本陣近くに店を構えた穀物問屋。



14 稲荷神社

桶川市寿2丁目

その昔紅花商人が寄進した大きな石灯籠が建つ。また嘉永5年(1852)に三ノ宮卯之助という男が持ち上げたという重さ7800kgの力石がある。



桶川市民  
毎年11月3日  
桶川宿は皇  
向の様子を



**中山道の道標**  
 左折川越、右折菖蒲  
 すると、交差点の一角  
 この碑が、右手前に  
 跡」の石碑が建つ。



**17 松山道の道標**  
 まつやまどうのどうひょう  
 桶川市西1丁目  
 左折して市役所へ続く道は、かつての松山道。天保7年(1836)に建てられた松山道の道標が、現在は北小学校敷地内に移されている。



**18 北本宿の碑**  
 きたもとしくひ  
 北本市本宿8丁目  
 北本市に入り、本宿交差点の左手建つ石碑。中山道の初期から慶長年間(1596~1615)の頃まで宿駅として栄えた本宿の歴史を伝える。

日本橋からの距離  
 10里14町(約41km)  
 家数：347軒  
 人口：1444人  
 本陣：1軒  
 脇本陣：2軒  
 旅籠屋：36軒



**岐阻街道 桶川宿 曠原之景**  
 溪斎英泉画。桶川宿の北部にある農家での農作業風景。軒先には煙草の葉が。



**民まつり**  
 日に実施され、パレードなどで賑わう。特に皇女和宮が宿泊したことにちなみ、江戸下市民が演じる皇女和宮行列が行われる。

**中山道まめ知識**  
**旅人が集う宿駅でにぎわいを見せた北本**  
 中山道の宿駅としてにぎわいを見せた北本の一帯。宿駅とは、旅人を宿泊させたり、荷物の運搬に必要な人馬の手配をする設備(=問屋)のあるところ。慶長年間に宿駅を鴻巣に移された後も、問の宿として旅人でにぎわった。  
\*問の宿とは2つの宿の間にある宿



21 はらまろいちりづか  
**原馬室一里塚**

鴻巣市小松4丁目

林の中に現存し、石碑が建つ。当時は東西の両方に塚があったが、明治16年(1883)の鉄道敷設時に東塚は壊され、現在は西塚だけに。

**北本市**



19 たもんじ  
**多聞寺**

北本市本宿2丁目

緑豊かな境内には、県の天然記念物に指定されている樹齢200年、高さ27m、枝張り14mというムクロジの巨木がそびえる。

中山道まめ知識

徳川家康の命で築かれた旅に欠かせない一里塚

五街道の一里塚は、徳川家康が慶長9年(1604)に築かせたもので、後に全国に及んだ。1里を36町(約4km弱、1町=約109m)と統一、江戸日本橋を起点に1里ごとに塚を築き、頂上にエノキの木を植えて、旅の里程の目印とした。



22 なかせんどうこう 中山道古道

鴻巣市小松2丁目

区画整理で多くの部分は失われてしまったが、1本西側の道に入ると、今もひそやかに残る中山道の古道をたどることができる。

22 中山道古道

鴻巣市

JR高崎線



20 せんげんじんじゃ 浅間神社

北本市東間1丁目

大きな鳥居と小高い塚、そして瓦葺きの社殿が印象的な神社。7月1日の初山はその年の1歳の子供を祝う祭りで毎年人々でにぎわっている。

